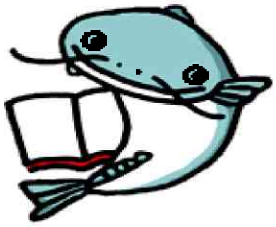
第１８号



ナマズの知恵袋

平成 20 年（2008 年）１０月１日
編集・発行　滋賀県立図書館

調べてみよう地域のこと
～地図から見える滋賀のすがた～

見るもよし、読むもよし、地図は、その土地の歴史や文化などさまざまなことを語りかけています。我が国では明治時代から基本となる地図として、地形図が統一された縮尺で整備されています。地形図を年代別に調べることで、その地域が変化する様相を知ることができます。また、わたしたちのまわりの身近な自然も、地図を片手に眺めれば、滋賀県独自の姿をもっていることに気づきます。今回は、地域調査と再発見に役立つ数々の地図について、滋賀県の地図を中心にご紹介します。

地形図から琵琶湖周辺の変化を見る

琵琶湖には４０あまりの内湖がありましたが、なかでも大中の湖は昭和３２年から昭和４２年にかけて干拓が進められ２５．２k㎡もの広さになりました。干拓によって地形がどのように変わったか、以前はどんな土地だったか移り変わりを知るには、新旧の地図や空中写真を見比べるとよくわかります。

当館では、明治期から昭和期に発行された国土地理院の地形図をまとめた、図歴地形図などでご覧いただくことができます。

- 『滋賀県１／５万図歴地形図』国土地理院 1993［SB-2900-1～18］
- 『滋賀県１／２万地形図』大日本帝国陸地測量部　1993［5B-2900-1］
- 『滋賀県１／２．５万図歴地形図』国土地理院　1995［SB-2900-1～13］
- 『昭和２０年代米軍撮影空中写真』日本地図センター　1996［１-2900-1～5］
- 『昭和３０年代滋賀県空中写真』国土測量　2003　［S-2900-1～4］
- 『１／２万空中写真』国土地理院　1975［1-2900-1～8］
- 『カラー空中写真滋賀県』　国土地理院　1991　［S-2900-1～7］

国土地理院のホームページから地形図・空中写真を見る

国土地理院のホームページから、2万5千分の1の地形図と空中写真を見ることができます。
http://www.gsi.go.jp/kiban/index.html

市町村合併による移り変わりを見る

明治４年の廃藩置県後、めまぐるしく地方制度の変遷があり、明治２２年４月１日に市制・町村制が施行され大規模な町村合併が行われています。以来、昭和の大合併、平成の大合併をへて今日の行政区分が実施されています。

明治以降における市町村の成立と変貌について調べるには次の資料が役に立ちます。

- 『滋賀県市町村沿革史』第１巻～第６巻　滋賀県市町村沿革史編さん委員会編　1960～1967［S-2100-1～6］
  付図として「滋賀県市町村変遷図」があります。
- 『滋賀』ｸｲｯｸﾏｯﾌﾟﾙ 25　昭文社　2007［S-2900-07］
  平成の合併後を見るのに便利な地図です。

琵琶湖にも市町の境界がある

琵琶湖は境界未定地として、どの市町にも含まれず、水面上の境界は定められていませんでした。琵琶湖に市町境界を設定し、新たに算入される地方交付税を琵琶湖の総合保全対策に活用するために、琵琶湖に面する 10 市 4 町の合意に基づき境界が設定され、平成 19 年 9 月、琵琶湖における市町境界が確定しています。

- 「平成 19 年総務省告示第 546 号　市町の境界の確定」官報号外第 224 号　平成 19 年 9 月 28 日
- 『全国都道府県市区町村別面積調』平成１９年
  国土交通省国土地理院　2008 年［RB-3181-ｾ］

地図を片手に琵琶湖を旅しよう

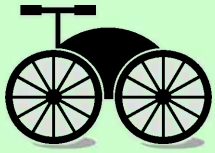
自転車で回るなら・・・

- 『琵琶湖一周サイクリングガイドマップ』
  ７回改版　滋賀県バイコロジーをすすめる会 2003　［SB-2900-03］がおすすめです。琵琶湖一周を８コースに分け、みどころと休憩地の案内がわかりやすく書かれています。(参考：滋賀県バイコロジーをすすめる会　http://www.bikecology.jp/)
- 『びわ湖・湖南サイクリングマップ』
  滋賀県湖南地域振興局　2004［S-AE40-04］

歩くなら・・・

- 『琵琶湖を歩く』山と渓谷社 2006［SP-2900-06］を参考にしていただくと１８コースの小旅行ができます。
- 『ＷＡＬＫ　2003 年春夏号』ウォーク関西版
  別冊山と渓谷　山と渓谷社大阪支局
  山と渓谷社　2003　［S-2900-03］

ゆっくりのんびり琵琶湖一周どこからでも歩ける日帰り 18 コースと琵琶湖一周を何回かに分けて旅する新聞社が企画するコースが掲載されています。



滋賀県の豊かな自然

滋賀県のまんなかには大きな琵琶湖、そのまわりには伊吹山をはじめとする高い山、そして日本列島のほぼ中央に位置するということから、滋賀県では寒い地方の植物や暖かい地方の植物などが入り混じってみられるという特徴を持っています。どこにどのような種類の植物がみられるのか、自然の様子がわかる地図、それが「植生図」です。当館所蔵の主な「植生図」を紹介します。

- 『滋賀県自然誌　付図・付表』滋賀県自然誌編集委員会　滋賀県自然保護財団発行（1991）[5-4000-2]
  「滋賀県潜在自然植生図 1:100, 000」「彦根・米原地域の植生 1:10, 000」を含む
- 『滋賀県の自然　付図・付表』滋賀県自然誌編集委員会　滋賀県自然保護財団発行（1979）[5-4000-79]
  「大津市現存植生図 1:50, 000」を含む
- 『滋賀県現存植生図』　自然環境研究センター（1988）1:50,000 [5-4700-82]
- 『栗東町の自然』小林圭介　栗東町（1983）[S-4022-83]　「1:20, 000 現存植生図」「潜在自然植生図」「植生自然度図」を含む
- 『草津市の自然』　小林圭介　草津市（1980）[5-4021-80]「草津市現存植生図」
  「草津市植生自然度図」
  「草津市潜在自然植生図」1:10, 000 を含む

参考になるホームページはこちら

■植生調査・情報提供ホームページ

全国の植生調査の成果が掲載されています。
現在更新されているデータは平成 18 年度の植生調査の成果に基づくものです。http://www.vegetation.jp/

■J-IBIS 生物多様性情報システム

環境省生物多様性センターが提供している、生物多様性や自然環境に関する総合データベースです。
植生図とは何かなどの基本的な解説も充実しています。
http://www.biodic.go.jp/J-IBIS.html

「自然は身近なたからもの」こんな地図もあります！

- 『環境宝もの地図』大津市（1996）[5B-4611-96]

「自然系の宝もの」「歴史文化系の宝もの」「まちの施設建物」が一目でわかります。平成５年度に行った「環境宝さがし」において市民から寄せられた情報をもとに作成したもので、写真とともに地図上に表しています。● 『大津市『ホタル』地図』[5-4811-01]『「ホタル」調査結果報告書』[SB-4811-01] 大津市環境部環境保全課編　大津市（2001）この地図は「身近な環境調査員」や市民の情報をもとにして作成したものです。

また平成元年、滋賀県下では水と人とのかかわりについて考える住民活動が発足し、まずは身近な「ホタル」を調査しようと、「ホタルダス」という名の調査活動が生まれました。

- 『みんなでホタルダス』水と文化研究会編(2000)新曜社 [S-4800-00]はその調査活動から見えてきた、琵琶湖やわたしたちの身近な環境を考えるヒントがかくされた一冊です。

災害に備える　ハザードマップ

阪神淡路大震災以降、県内の市町でも防災マップが作成されました。

- 『大津市地域防災マップ』大津市総務部総務課　1998　[SB-Z11- 98]　北部・中部・南東部版
- 『栗東市防災マップ』栗東市役所総務部危機管理課　2002　[SB-Z22-02]
- 『あわてない、あづちっ子のための安土町地震ハザードマップ』安土町事業課　2007　[SB-Z43-07]
- 『甲良町地震ハザードマップ』甲良町　2008　[SB-Z58-08]
- 『長浜市防災マップ』長浜市　2004 [SB-Z61-04]

このほか、最新の情報は、滋賀県のホームページから滋賀県防災情報マップを見ると、河川別浸水想定区域・土砂災害警戒区域・地震の推定震度・液状化危険度図・防災関連施設などがご覧いただけ、予想される様々な危険性を事前に知ることができます。http://www.pref.shiga.jp/bousai/index.html
また、活断層がどこを走っているかを調べるには、『近畿の活断層』岡田篤正著 東京大学出版会　2000　[5B-4508- 00]をご活用ください。防災対策や土地開発の参考になります。